

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】新宿区立津久戸小学校
 ■ 学校の共通目標 【HP公開用・様式1】

授業作り	重点	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、各教科において ICT 機器も活用しながら、双方向のコミュニケーションのある授業を目指す。 授業を通して、児童が夢中になって学びの対象に関わり、「聴く」こと、「考える」こと、「表現する」ことの3つに重点をおきながら、自分の考えをもつことができる授業づくりを目指す。
環境作り		<ul style="list-style-type: none"> クラスの中で、一人ひとりの児童が安心感と他者への信頼を実感できる学級経営を目指す。 児童にとって見通しのもてる授業設計と、それを可能にする教室環境（ユニバーサルデザインの視点）を整備する。

コメントの追加 [鈴木 智子]: 各欄でフォントや文字の大きさが違いますので、統一をお願いします。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学年		<ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味、様子や気持ちを考えて正しく読む。 平仮名、片仮名を文字の形に気を付けて書き、長音、拗音、促音、撥音、助詞を正しく使う。 相手を意識して話を聞き、自分の考えを文や文章で話す。 具体物を用いた活動を通して数についての感覚を身に付けるとともに、基本的な学習内容の定着をはかる。 	<ol style="list-style-type: none"> 音読、日記の習慣化 話し方、聞き方を例示、対話、話し合い活動（少人数）の設定 具体物の操作と紙教材、デジタル教材を活用した学習単位時間ごとのまとめや振り返り
2 学年		<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書きとりができるようになるために、正しい字形を捉えて書くことや正しい筆順で書く意識を形成する。 加法、減法、乗法の定着のために、補充問題をして理解を深める。 数学的な表現を確実にするために、加法、減法、乗法が用いられる場面を式に表したり、場面を絵や図で表したりする。 	<ol style="list-style-type: none"> 紙のドリルとデジタルドリルを併用した文字の学習 紙のドリルとデジタルドリルを使用した、基礎的な計算練習の日々の取り組み 具体物の操作や絵や図を意識的に描く授業の展開
3 学年	<ul style="list-style-type: none"> 物語文の場面の様子を読み取る力が十分に身に付ける必要がある。 新宿区学力定着度調査の結果、図形について理解を深める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文等の文章を書く機会を増やし、考えたり、書いたりすることに慣れる。 図形の特徴について具体物の操作を行いながら理解を深める。 個に応じた課題を認識し、達成する。 	<ol style="list-style-type: none"> 作文を日常的に書く活動の設定 具体物の操作とデジタルドリルを併用した学習 基礎的な計算練習の日々の取り組み 児童一人一人に即した課題の設定
4 学年	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査の結果、全体的に全国平均は上回っている。 物語文の場面の様子を読み取る力を十分に身に付ける必要がある。 図形を書く経験が乏しく、与えられた条件に合う図形を描く力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文等の文章を書く機会を増やし、考えたり、書いたりすることに慣れる。 図形の特徴を整理し、正確に作図することのできる力をつける。 	<ol style="list-style-type: none"> 日常的に作文等を書く機会の設定 互いに評価しあうための場面の設定 三角定規、分度器、コンパスなどの道具の使用の慣れ
5 学年	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査の結果、基礎学力は全体的に全国平均を上回っている。 7名の児童は、基礎学力が低く、差が見られる。 国語・算数の応用問題の正答率25%以下の児童が11名（約20%）おり、差がみられる。 資料から正しく情報を読み取 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いが相手に伝わるように、要点を抑えながら話したり、要約して書いたりする経験を積む。 学習した既習事項を活用して問題を解いていく経験を積む。 	<ol style="list-style-type: none"> 読書等の環境整備・新聞の活用など、文字に触れる機会の設定 対話の機会の充実 習熟度別学習の充実具体物の提示

	<ul style="list-style-type: none"> り、正対した回答を書き表す力を向上させる必要がある。 身の回りにあるものの測定や体験を通して、質量をつかむ力を向上させる必要がある。 		
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の結果、国語は区平均を上回ったが、算数は平均を下回っている。 ・国語科では、書くことの領域において課題が見られる。 ・算数科では、変化と関係の領域において課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を身に付け、自律して学習に取り組む。 ・書くポイントや文章構成をおさえながら、考えや伝えたい思いを、適切に表現する力を身に付ける。 ・伴って変わる2つの数量の関係に着目し、それらの関係を用いたり、単位量当たりの大きさの意味及び表し方を理解し、単位量当たりの大きさを用いて比べたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 既習事項を確認する時間を設定し、見通しがもてる学習活動の実施。 ② モデル文を参考にして、書く順序を意識しながら書くことへの苦手意識をなくす。 ③ 児童一人ひとりに即した課題の設定。放課後補習での対応。
特 別 支 援			